

「八王子版！SDGs 教育の推進に向けた^{す ぎ ろ く}地域教材」 ーパッションフルーツを市民の手で八王子の食材に！ー

SUGOROKU for promotion of SDGs (version Hachioji) -Let's make passion fruits more familiar-

チーム名：スゴ6

榎島 沙織, 大畑 真宏, 二宮 藍, 林 菜摘実, 山田 成美, 吉田 風花
指導教員 前田幸男

創価大学 法学部 法律学科 前田幸男ゼミナール

キーワード：パッションフルーツ, 地産地消, SDGs

1. はじめに

2030年までに持続可能な社会を実現すべく、SDGs（持続可能な開発目標）が注目されている。それに合わせて、今年度からSDGs教育が新しく学習指導要領に導入された（八王子市におけるSDGs教育の現況については後述）。

八王子市では、農家、JA八王子と商工会議所が中心に、パッションフルーツを名産化すべく活動が行われている。その1つに小学校でパッションフルーツを栽培してもらう「パッションフルーツ育成事業」がある。

こうした「農×商」のユニークな取り組みは八王子市が誇れる潜在的な魅力の一つと考え、私たちは、八王子のパッションフルーツ使った新しいSDGs教育を提案する。この取り組みにより、公教育でのSDGs教育を一層活発化できると考える。

2. 現状分析

① 八王子市小学校のSDGs教育における現状

八王子市のSDGs教育内容は、各小学校で様々な特色がある。SDGsに関する学びを発表する場を設ける学校や、浅川を地域教材として水質汚染の現状を教える学校もある。また、調査を通して、東京都教育委員会が推進する「もったいない」大作戦に参加する学校や、校庭の葉を用いて自然学習を行う学校があることが分かった。一方現在取り組んでいる教育内容を、児童がグローバルな社会課題

と結びつけられるような環境教育を模索しているとの声も挙がっており、SDGs教育の推進は今後の課題であることが明らかになった。

② 八王子産パッションフルーツの現状

八王子市では、パッションフルーツを新たな名産品にしようと、様々な取り組みが行われている。加工品の販売や学校給食での利用などが注目されるが、その認知度は未だ低い。2019年度より商工会議所が「パッションフルーツの育成事業」を小学校へ提案したが、協力を申し出たのは市内70校中13校のみであった。育成事業に参加しなかった小学校に調査したところ、パッションフルーツの認知度の低さが一要因であると分かった。また、参加校にも調査したところ、管理者は教職員が多く、児童が栽培に携わる学校は少なかった。そのため、「パッションフルーツの育成事業」参加校の児童であっても、パッションフルーツの認知度はそこまで高くないことが分かった。



（陶鎔小学校のパッションフルーツ）

3. 課題の可視化と解決策の提案

課題①小学校における SDGs 教育の充実

八王子市内の小学校では、以前より川での自然学習やゴミのリサイクルなどに取り組んでいるが、SDGs 教育にうまく結びつけられていないことが分かってきた。そこで SDGs が示す地球規模の問題とローカルな問題の相互の関連性を、児童にわかりやすく伝えることが課題であると考えた。

課題②パッションフルーツの認知度

八王子市が積極的に推進しているが、パッションフルーツは、いまだ市民が日常的に手に取る果物ではない。小学校での育成事業も初期段階であり、参加校も 13 校に留まっている。八王子市全体で新たな名産品を盛り上げるため、パッションフルーツ自体の認知度の向上が課題である。

解決策

これら二つの課題解決のために、「八王子版！地域教材（すごろく）」の作成を考案する。このすごろくは、パッションフルーツをメインモチーフにしながら、地域に密着した形で SDGs を学べる。パッションフルーツが幅広い層に愛される名産品になる足掛かりになるためこのすごろくを提案する。

4. 具体的な提案

概要

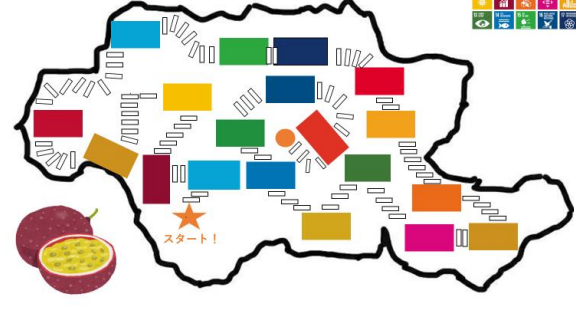
パッションフルーツをメインモチーフにした地域教材（すごろく）を作成し、市内の小学校に推進・普及する。すごろくの使用を通して、地域に根差した SDGs 教育を推進し、同時にパッションフルーツの認知度向上を図る。

すごろくの内容

地域の川、山などの自然物を取り入れ、SDGs との関連性を学べるものにする。また、現在小学校で行われている環境教育や農業体験などをすごろくのマスに入れることを検討している。



八王子市×持続可能なまちづくり



期待される効果

- ・ SDGs に対する理解度が増す。
- ・ 現行の環境教育と SDGs を結びつけて考えられる。
- ・ SDGs 教育とパッションフルーツの振興という、別の課題を掛けあわせて考えるきっかけを作ること、イシュー間の関連性を想像する力を養う。
- ・ 児童の地域への愛着が湧く。
- ・ パッションフルーツの認知度が向上する。
- ・ 八王子市民がパッションフルーツに親しみを持つことで、消費につながる。

5. 今後の展望

小学校の使用だけに留まらず、家庭や児童館などの公共施設での使用も促進していきたい。また幅広い年代が楽しんで使用できるよう、改善していく。

このパッションフルーツをモチーフにした地域教材をきっかけに、地域の自然や現行の環境教育の意義を再定義してもらうことで、地域に根差した SDGs への理解が深まることを期待する。

6. 参考文献

サイバーシルクロード（2020）「八王子パッションフルーツ苗育成事業市内小学校にご協力いただきます！」<https://www.cyber-silkroad.jp/2020/04/hachioji-passion/>

[閲覧日：2020年10月19日]

文部科学省（n.d）「平成29・30年改訂 学習指導要領、解説等」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm [閲覧日：2020年10月15日]